

※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

輝くシニア

故郷の未来に希望を込めて居酒屋を出店

高橋コウさん（大船渡市）86 歳

平成23年12月20日、「飲食店の明かりから街の復興を」を掲げ、大船渡屋台村は、震災を機に新規で开店する5軒を含めた20軒（小料理屋、お寿司、中華など）でオープンしました。その中で新規出店した「おふくろの味えんがわ」を、高橋コウさんは娘の恵美さんと経営しています。食堂経営の経験がないにも関わらず「高齢者が集まれる場になれば」と願い、娘の恵美さんと共に、屋台村に「えんがわ」出店の申込みをしました。「震災前は、畑仕事くらいで他に特別なことはしていなかったから、この歳でこんなことを始めるとは夢にも思っていなかった」と語っています。

高橋さんは、震災により自宅が流され、避難所生活をしている時に東京にいる息子と連絡が取れ、息子のマンションに転居していました。東京では、会社が借りている農地で野菜作りをしたり、息子が留守にしている間の家事をこなしていました。約8か月が過ぎ、東京の暮らしにも慣れ、このまま東京で暮らしても良いかと考えていた矢先、娘から、大船渡で行う復興屋台村の話を持ちかけられました。



大船渡屋台村「おふくろの味えんがわ」の高橋コウさん

「震災後、生かされた命に感謝するようになり、何かのために役に立ちたいという思いがあった」、「得意の料理を生かして、楽しみながらやってみるのもいいんじゃないか」という気持ちから、「特に迷いはなく決断した」と語っています。

出店が決まってからは、東京で息子と出かけた居酒屋の店主等から、店のレイアウトやメニュー等のアドバイスを受けました。

出店後は、近くの仮設住宅か

ら通い、火曜日～日曜日の朝10時出勤、11時半開店、昼の営業は14時半まで。夜は娘と交替し、17時半～22時まで営業。

「居酒屋を始めてから、足腰が痛まなくなった。血圧も安定してきて、以前より元気になった」との言葉どおり、店内では手際が良く、足取りも軽やか。

「流れに任せて、何とかなるといふ考えなんです。生かされて、こんなことができてるのはとてもありがたい」と語っています。

平成24年版高齢社会白書から

高齢者パワーへの期待 ～社会を支える頼もしい現役シニア～

政府は、6月に平成24年版の高齢社会白書を公表しました。白書では、超高齢社会を迎えた我が国では、これまでの「人生65年時代」を前提とした高齢者の捉え方について、「人生90年時代」を前提としたものへと転換させる必要があるとしています。要点を紹介します。

○高齢化の進展

我が国の65歳以上の高齢者人口は、平成23(2011)年10月1日現在、過去最高の2,975万人(前年2,925万人)となり、高齢化率は23.3%(前年23.0%)で、5人に1人の高齢社会となっています。今後総人口が減少するなかで、高齢者人口の増加により高齢化率は上昇を続け、平成25(2013)年には高齢者が4人に1人、47(2035)年には3人に1人となる社会が到来するとされています。

○「高齢者」の捉え方の意識改革

団塊の世代が2012年から65歳になり、団塊の世代には、これまでの経験を活かし、今後の超高齢社会を先導する役割が期待されています。

また、65歳を超えても元気で、就労や社会参加活動を通じ現役として活躍している人が多くなっているなかで、高齢者パワーを最大限に活かすためにも、65歳以上の人を「支えられる人」と捉えず、意欲と能力のある人には支える側にまわってもらおうという意識改革が必要とされます。

○高齢者パワーへの期待

今後、労働力人口の減少が見込まれる我が国において、成長力を高めていくためには、高齢者を含めた国民すべてが意欲と能力に応じ労働市場やさまざまな社会活動に参加できる社会(「居場所」と「出番」)を実現する必要があります。このため、意欲と能力のある高齢者には、本人の希望や自主性に応じた就労や社会参加を通じ、社会の支え手や担い手として活躍できる環境づくりが重要となっています。

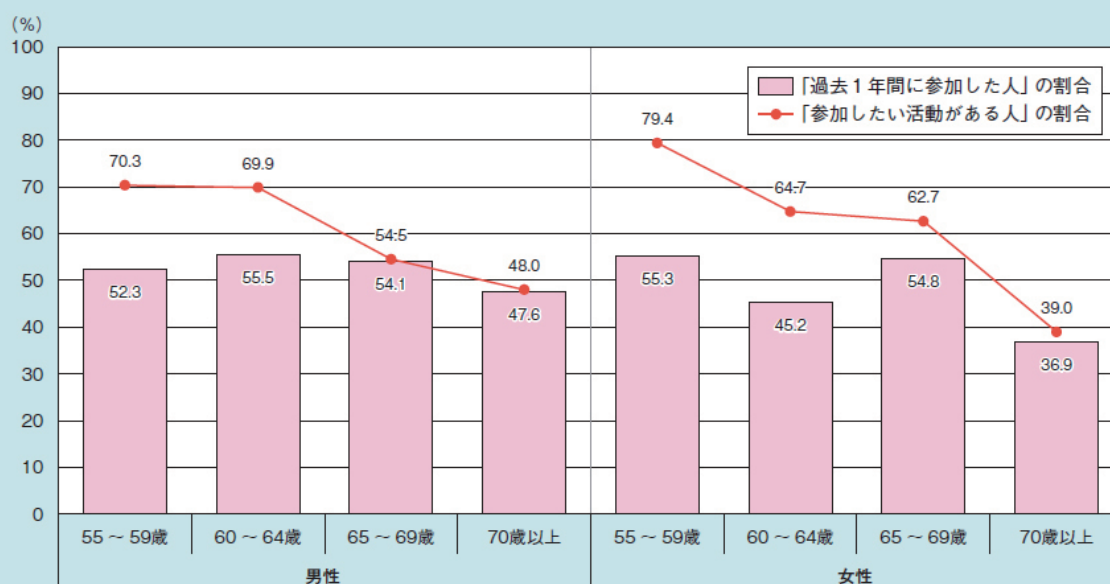
(1) 就労

高齢者の就業に対する意向をみると、65歳以降も働きたい人と就業率の間には乖離がみられます。意欲と能力のある65歳以上の高齢者が、本人の希望に応じて働き続けることができるよう、個々人の意欲・体力や家庭の状況等による多様なニーズに応じた柔軟な働き方が可能となる雇用・就業の機会を確保する必要があります。

(2) 社会参加

社会的な活動への参加状況と参加希望を年齢階層別にみると、参加意欲が必ずしも実際の活動に結びついていません(グラフ参照)。高齢者の自主性を活かした社会参加を活性化するため、様々な生き方を可能とする新しい活躍の場の創出や意欲と活躍できる場のつながりの強化、地域の特性を活かした、高齢者の「居場所」と「出番」をつくり、高齢者を含めた住民間の連携を促進する必要があります。

図1-4-2-3 地域活動・ボランティア活動の参加状況と参加希望



資料：内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査」(平成23年)

かだって会 (二戸市)

「住民同士の交流を深め、温かいまちづくりを目指す」

かだって会(田中直治会長、世帯数110)は、二戸市浄法寺町の高齢者が中心となって、平成22年8月に結成。住民同士が交流する機会をもつことで、支え合い意識の醸成、地域の活性化を図ることを目的に活動しています。

主な活動内容は、高齢者と子どもたちとの世代間交流(米づくり農業体験、演芸会、ゲーム大会など)、道路沿いの環境整備(花の植え付け、花壇整備など)、児童の登校時の見守り、小規模多機能型居宅介護施設へのボランティア協力(給食の手伝い、草取り、除雪など)です。

特に活動の中心となっているのは、世代間交流です。今年5月には会員の田んぼを使用して、地域の子どもたちや大人約50名が集まり田植え体験を実施しました。

田中会長は、「今後も、会のモットーである『無理をせず、できることからやってみよう』というかたちで長く続けていき



田植え体験をする会員のみなさんと地域の子どもたち

たい」と話しています。

同会へのお問い合わせ先は、田中会長 0195-38-2848まで。

(この事業の一部に、(公財)いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。)

NPO 活動実践「龍扇会」(一関市)

NPO活動実践「龍扇会」(富士スミコ会長、会員20人)は、地域の各分野で活動する方々の参加を得て、平成17年4月に結成しました。住みよい地域づくりを目指すため、地域との協力を深めながら、一関市を拠点に活動を続けています。



国立高専内で留学生と市民芸能祭発表の練習(富士会長、右から2人目)

「舞踏を通じた地域交流と異文化交流」

主な活動内容は、高齢者福祉施設への舞踏による慰問活動、留学生を対象とした日本の文化・芸能指導教室の実施、その他、地域の各種イベントへの協力を行っています。慰問活動を月に10回、年間を通じて120回実施するほか、様々な奉仕活動の実績が各方面に認められ、社会を明るくする運動(法務省)、盛岡保護観察所長、日本赤十字社等から表彰を受けました。

富士会長は、「若い年代の人たちに理解が得られるようになってきたと思う。それが原動力になっている。また、留学生とは、他国へ離れてからも手紙交換ができて感動している」と語っています。

同会へのお問い合わせ先は、富士会長 090-5590-7220まで。

(この事業の一部に、(公財)いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。)

書籍紹介

心がぽかぽかするニュース HAPPY NEWS 2011 日本新聞協会編 文藝春秋

新聞記事の中に発見した心温まる話題を全国から募集し、その中から厳選した64の話題を掲載しています。その全ては2011年の出来事。復興支援をきっかけに始まった国際交流、津波で亡くなった夫がこっそり買ってくれていた指輪が見つかった話など。震災が色濃く反映され、家族や人の絆が話題の中心となって

います。新聞記事に加え記事を推薦した人のコメントが付けられ、どれも小さな話題ですが、凛と咲く花のように生き生きとした輝きがあり人の温かさにあふれています。

新聞の記事は、固くて難しい・暗い話題が目立ちますが、明るい話題も多く掲載されていることに気づかされます。



盛岡市西部公民館（坂ノ上壽夫館長）は、盛岡市北上川西側の西部地区を対象に、市で4館目の区公民館として平成6年5月に開館されました。

この公民館の特色は、会議室、視聴覚室、調理実習室、図書室などの施設に加え、情報化の進展や市民の健康志向に対応できるよう、パソコン学習室などのほか、プレーホール（体育館）、トレーニングルームが整備されていることです。また、講座・教室の修了後、受講生同士がサークル団体として自主的に活動ができるように、積極的に働きかけを行っています（右の表参照）。これらの団体には、施設利用料の減免（同市公民館共通）、公民館祭での発表の機会の提供などの支援を行っています。

公民館全体の利用者数（実利用者数）は、開館時の3万人余りから増加してきたものの、平成16年度に7万人に達してからは、現在までほぼ横ばいの状況です。その一方、各種講座・教室の受講者数は、開館時は千人余でしたが、平成23年度は約5千4百人と、講座数の増加などもあり年々増加しています。この各種講座・教室では、世代別・分野別に、平成23年度は56講座を開催。とりわけ成人向けの講座（主に郷土史、文学の他、

サークル団体の状況（平成24.4.1現在）

分 野	団体数	会員数（人）
美 術	11	115
音 楽	10	229
ス ポ ー ツ	7	213
ダ ン ス	4	100
料 理	4	89
外 国 語	4	51
文 学	3	40
ボランティア	2	55
趣 味	2	34
写 真	2	27
茶 道	2	25
その他（子育て、歴史、読書）	3	49
計	54	1,027

ヨガなどの健康をテーマにした講座）の受講者は、約8割が60～70代の高齢者となっています。

また、毎週金曜日、高齢者を対象として「ひだまり談話室」を実施しています。この「談話室」は、ひとり暮らしや外出する機会が少ない高齢者等に語らいの場を提供することを目的に、学習の場、料理教室、バス見学会、映画観賞会など多彩なメニューを準備しています。事前の申し込みや登録は必要なく、気軽に参加できます。

さらに、高齢者のパソコン習得のニーズに応えるために、パソコン学習室を活用して「じっくり学ぶパソコン教室」（地元NPO法人との共催）を実施しています（平成24年度は61回を計画）。

「西部公民館では従来からひだまり談話室等集いの場としての公民館活動や出前公民館など開かれた公民館づくりに積極的に取り組んできましたが、今後も地域との連携を大切にして開かれた公民館づくりを進めていきたい」と坂ノ上館長は語っています。

お問い合わせは、同館（TEL019-643-2288）まで。



ひだまり談話室の様子（料理教室）

地域の団体交流会及び「ご近所支え合い活動助成金」など各種助成金説明会（仮称）開催のお知らせ

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターでは、活動団体の交流会と平成25年度「ご近所支え合い活動助成金」などの説明会を下記の予定で県内各地区で開催します。お問い合わせは、当サポートセンターまでご連絡ください。

10月中旬 盛岡・釜石・久慈、11月上旬 二戸・宮古、11月中旬 奥州・大船渡・一関、11月下旬 北上・花巻

県内の活動団体を紹介しています！！

高齢者サポートセンターのホームページでは、県内の高齢者を中心とした活動団体を分野別（福祉、環境、文化・芸術など）に掲載していますので、是非、ご覧ください。「岩手県高齢者サポートセンター」で検索できます。

企画・発行 / 岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター 平成24年9月10日発行

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1 アイーナ6階 tel 019-606-1774 fax 019-606-1765

E-mail koreisha-hfk@aiina.jp URL <http://www.aiina.jp/advancedage/index.html>

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託して運営しています。

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3-7-30 tel 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp/>